

九品来迎図

鳳凰堂に入ると、壁から壁へ、天井から天井までの九品来迎図に驚かされる。阿弥陀如来に関連する場面を描いた絵は、新たに亡くなった人の霊を迎えている。これらのシーンはすべて、西方極楽浄土への深い信仰をよく示している。信仰の深さと、生きている間の行為の良さによって、九つの段階の迎え方がある。真に良き人生のために、阿弥陀如来と多くの菩薩が極楽浄土に導かれることが待ち望まれる。極楽浄土で生まれ変わったなら、悲しみや苦しみなく、そこで暮らすことができる。

頼道の極楽浄土への深い思いにより、鳳凰堂を建て、扉や壁にさまざまな死と生の再生の場面を描いた。これらの描写は、その時代の信仰を理解する上で非常に重要である。

描かれている場面のもう一つの特徴は、それらが和絵の日本画で描かれていることである。背景には山と川、四季の描写が含まれている。このスタイルの絵画は唐王朝の絵画に触発され、平安時代後期までに完全に発展した技法である。

ここに描かれている作品は時間とともに色あせているが、1970年頃に複製が行われたため、ここへ拝観に訪れた者は作品が本来あった姿を見ることができる。